

令和7年度

「運営に関する計画」

最終評価



大阪市立港晴小学校

令和8年2月

## 大阪市立港晴小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

「豊かな人間性を育み、明るく楽しくたくましく生きる子どもを育てる」を学校教育目標にさだめ「明るく、楽しく、たくましく」を校訓として日々の教育活動に取り組んでいる。

令和7年度の在籍児童数は146名で、昨年度とほぼ同等である。令和11年度の学校再編実施まで、学級数は各学年1学級での学校運営となることが推定されている。

安全・安心な教育の推進を図る指標として、「いじめ」の問題に積極的に取り組んでいる。「心の天気」や「いじめアンケート」による児童からの発信を受け止め、寄り添って声掛けをすることや、道徳科の授業などで児童への啓発活動を行ってきた。その結果、多人数に広がる「いじめ」の問題は発生していないが、いつ、どこで起きるかわからないという意識を常に持ち、教職員が共通理解を図りながら今後も取り組んでいきたいと考えている。

令和6年度の校内児童アンケートにおいて「港晴小学校のやくそくを守っていますか」の設問において、肯定的な回答の割合は91.7%であった。しかし、遊具の使い方や廊下・階段での歩行など、ルールを守ることができない児童もいるので更なる啓発活動が必要である。

学力の向上については、研究教科である道徳科を中心に教職員一同が一丸となって研究活動に取り組み、授業力の向上に努めてきた。また学力向上チーム支援事業(重点支援)の選定を受け、児童の学力向上に努めた。特に、放課後学習教室や長期休業中にはコラボレーターや学びサポーターを中心に児童の指導にあたってきた。その結果、令和6年度の大阪市学力経年調査では、全体の44.4%が標準化得点の市平均値(100.0)を上回り、経年比較において4～6年の23.1%の教科で昨年度の標準化得点を上回る結果となった。今年度も今までの取り組みを継続し、発展させていきたい。

体力の向上については、5月に実施した全国体力・運動能力調査で全国平均値を上回る種目が31.2%であった。これを受け、令和7年度も令和6年度と同様に、縄とび週間や大縄大会を設けることによって体力の向上を継続的に取り組んでいきたい。

学びを支える教育活動の充実においては、1人1台パソコンの活用が児童に浸透し、日ごろの教育活動の中で効果的に活用できるようになってきている。今後も広く実践事例を収集し、教職員間での情報共有を図ることで教育活動の更なる充実を図っていきたい。また、児童に学習の楽しさや達成感を味わわせることで、学習に対して取り組む姿勢を向上させていきたい。

教職員の働き方改革については、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合が100%となり、一定の成果を上げている。今後も継続して取り組んでいきたい。

## 中期目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- 学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的な回答の割合を毎年向上させていく。  
(R5年度:88.2% R6年度:91.2%)
- 校内児童アンケートの「学校が楽しい」の項目の肯定的な回答の割合を毎年向上させていく。  
(R5年度:86.4% R6年度:87.5%)
- 校内児童アンケートにおける「災害が起こったときに、どうすればよいかわかりますか。」の項目について、肯定的な回答の割合90%以上を維持する。  
(R5年度:97.3% R6年度:95.8%)

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 校内児童アンケートの「学習はわかりますか」の肯定的な回答の割合を毎年向上させる。  
(R5年度:94.5% R6年度:97.9%)
- 校内児童アンケートの「運動や遊びを進んでしていますか」の肯定的な回答の割合を毎年向上させる。  
(R5年度:86.4% R6年度:86.1%)

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 校内児童アンケートの「1人1台パソコンを使って、学習がよくわかるようになりましたか。」の肯定的な回答の割合を90%以上にする。  
(R5年度:90.0% R6年度:91.0%)
- ゆとりの日を週に1回設定し、18時までに退勤する教職員の割合を80%以上にする。  
(R5年度3学期:79% R6年度3学期:80.0%)

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を80.3%以上にする。【R6年度:80.2%】
- ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80.3%以上にする。【R6年度:80.2%】

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40.8%以上にする。【R6年度:40.7%】
- ・小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を65.8%以上にする。【R6年度:65.7%】

### 【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く)  
【R6年度:32.2%】
- ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合100%を維持する。【R6年度:100%】

※ 基準2 1年間の時間外勤務時間が720時間以下、時間外勤務時間が45時間を超える月数6以下、時間外勤務時間が100時間を超える月数0、直近2～6か月の時間外勤務時間の平均が80時間を超える月数0、を全て満たす。

### 3 本年度の自己評価結果の総括

#### 【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

本年度は、いじめ防止に関する意識の醸成において一定の成果を上げることができた。「いじめはどんな理由があってもいけない」と最も肯定的に回答した児童の割合は 82.3%となり、目標値を上回った。これは、定期的ないじめアンケートの実施と迅速な聞き取り、学年団による情報共有体制の強化など、組織的な対応が機能した結果であると評価できる。特に、自ら声を上げにくい児童にとってアンケート機能が支援の窓口となっている点は重要である。一方、「学校に行くのは楽しい」とする経年調査の結果は目標値に達しなかった。しかし、校内児童アンケートおよび保護者アンケートでは 90%以上が肯定的回答を示しており、多くの児童が学校生活を前向きに捉えている実態が確認できる。全校行事や異学年交流などの取組が、仲間との協働や所属感の向上につながっていると考えられる。総じて、安全・安心な教育環境は着実に整備されつつあるが、調査手法の違いによる結果の差異も踏まえ、児童一人ひとりの心理的安全性をさらに高める取組を継続・深化させる必要がある。

#### 【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

学力面では、対話的な学びに関する経年調査の最も肯定的に回答した児童の割合が目標値を下回る結果となった。しかし、全教員が年間1本以上の授業研究・公開授業を実施し、学年団での指導案検討会や討議会を充実させたことは、授業改善を組織的に進める大きな前進である。校内アンケートでは「学習がわかる」と回答した児童が 95%に達しており、基礎的理解の定着や学習意欲の向上は確実に進んでいる。体力面では、「運動が好き」とする最も肯定的に回答した児童の割合は目標値にわずかに届かなかったものの、縦割りドッジビーや大なわ記録会、なわとび週間など、年間を通じた継続的取組により、運動に進んで取り組む児童は増加傾向にある。特に、苦手な児童も参加できるルール工夫や目標設定の明確化により、主体的に運動する姿が見られたことは評価できる。総括すると、数値目標の一部は未達であるものの、授業改善と運動習慣形成の基盤は着実に構築されている。今後は、対話の質を高める授業デザインのさらなる工夫と、学年間の差を踏まえた重点支援が求められる。

#### 【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

ICT 活用については、「心の天気」や連絡帳機能の活用が定着し、児童の端末活用率は目標達成に向けて大きく前進した。授業においても調べ学習や意見交流など活用場面が広がり、教育 DX の推進は着実に進んでいる。一方で、持ち帰り後の活用ルールや学習目的の明確化など、適切な使用に向けた指導の徹底が課題として明確になった。働き方改革については、基準2の維持を目標としたが、授業研究の充実等により勤務時間が延びる傾向も見られた。ゆとりの日の設定やオンライン化による業務効率化など一定の成果はあるが、業務の精選や分担の最適化など、構造的改善が引き続き必要である。総じて、教育環境の充実は前進しているものの、ICTの質的活用と持続可能な組織運営の両立が今後の重要課題である。

(様式2)

## 大阪市立港晴小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <p>・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 80.3%以上にする。 【R6 年度:80.2%】</p> <p>・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80.3%以上にする。【R6 年度:80.2%】</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【<b>基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現</b>】</p> <p>いじめのアンケート調査を定期的に実施し、当該児童からの訴えを聞き取り、解決を図る。</p> <p style="text-align: right;">(1-1 いじめへの対応)</p>	B
<p>指標</p> <p>・いじめのアンケート調査を年3回(6月・10月・1月)に行う。</p>	
<p>取組内容②【<b>基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現</b>】</p> <p>全校での学校行事を定期的に実施し、安心や安全について考え、集団生活や社会のルールを学び、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主性を促す。</p> <p style="text-align: right;">(1-3 問題行動への対応)</p>	B
<p>指標</p> <p>・全校で取り組む行事を年3回(5月・6月・12月)に行う。</p>	

## 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

<p><b>【年度目標の達成状況】</b></p> <p>小学校学力経年調査において、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に最も肯定的に回答した児童の割合は 82.3% であり、目標値を 2.0 ポイント上回った。一方、「学校に行くのは楽しいと思いますか」に肯定的に回答した割合は 76.9% であり、目標値を 3.4 ポイント下回った。しかし、1月実施の校内児童アンケートでは「学校は楽しい」と回答した割合が 90%、保護者アンケートでは 92% となっており、校内実態としては高い肯定感が確認できた。</p>
<p><b>【取組の成果と分析】</b></p> <p>本市教育振興基本計画が掲げる「安全・安心な教育の推進」「誰一人取り残さない支援体制の構築」に基づき、いじめアンケートを年間3回実施し、速やかな聞き取りと組織的対応を徹底した。アンケートは、直接訴えることが難しい児童にとって有効なSOS機能として機能している。また、学年団としての体制を強化し、複数の目による見守り体制を整備したことで、情報共有の迅速化と</p>

早期対応につながった。さらに、全校行事(ドッジビー大会、港晴フェスティバル、大なわ記録会等)を計画的に実施し、異学年交流や協働活動を通して所属感・自己有用感を高める機会を創出した。

これらの取組は、基本計画が重視する「子どもの自己肯定感の向上」「豊かな人間関係の形成」に資するものである。

なお、学校アンケートと学力経年調査との差異については、設問形式や実施時期の違いも含め、引き続き丁寧な分析が必要である。

#### 次年度への改善点

- ・いじめアンケートと聞き取りを継続し、結果を全教職員で共有する組織的対応を一層強化する。
- ・年度末(3月)に困りごとの確認機会を設け、安心して進級できる環境を整備する。
- ・行事後の振り返りを可視化し、自己有用感の向上につながる活動へ発展させる。

(様式2)

## 大阪市立港晴小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40.8%以上にする。【R6 年度:40.7%】</li> <li>・小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を65.8%以上にする。【R6 年度:65.7%】</li> </ul>	B
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	進捗状況
<p>取組内容①【<b>基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上</b>】</p> <p>言語活動の充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を行う。 (4-1 言語活動・理数教育の充実(思考力・判断力・表現力等の育成))</p> <p>指標</p> <p>・全ての教員が年間1本以上の授業研究・公開授業を実施する。</p>	A
<p>取組内容②【<b>基本的な方向5、健やかな体の育成</b>】</p> <p>主体的に運動する習慣を身に付け、基礎的な体力・運動能力の向上を図る。 (5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進)</p> <p>指標</p> <p>・児童が運動に楽しく参加できる取組・企画を年間2回以上実施する。</p>	A
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p><b>【年度目標の達成状況】</b></p> <p>学力経年調査において、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と最も肯定的に回答した児童の割合は 24.8%(肯定的な回答 66.7%) であり、目標値を下回った。一方、校内アンケートでは、「自分の考えをもって話したり聞いたりできる」と肯定的に回答した児童の割合は 90%(最も肯定的な回答をした児童は 54%)、「学習がわかる」と回答した割合は 95%と高い水準を示した。</p> <p>また、「運動やスポーツが好き」と最も肯定的に回答した割合は 64.5% で目標値にわずかに届かなかった。校内アンケートでは「進んで運動している」との最も肯定的な回答が 68% となり目標値を上回った。</p>	
<p><b>【取組の成果と分析】</b></p> <p>教育振興基本計画が掲げる「未来を切り拓く学力・体力の向上」に基づき、全教員が年間1本以上の研究授業を実施し、事前検討会・模擬授業・事後討議会を体系的に実施した。教員同士が対</p>	

話的に学ぶ校内研修体制を整えたことは、授業改善の基盤強化につながっている。

一方、学力経年調査結果からは、話し合い活動を通じた思考の深化について課題が示された。今後は、発言量を増やす指導の工夫が求められる。

体力向上では、「たてわりドッジビー」「大なわ記録会」「なわとび週間」等を実施し、運動の楽しさを実感できる機会を拡充した。苦手な児童も参加できるルール設定や目標の可視化により、主体的な取組が促進された。

これらは基本計画が示す「主体的に学び、挑戦する子どもの育成」に合致する取組である。

#### 次年度への改善点

- ・ 話し合い活動の質を高めるため、思考ツールや振り返りの工夫などを導入する。
- ・ 授業研究の成果を共有し、学力向上策を体系化する。
- ・ 運動習慣形成の取組を年間計画に位置付け、体力向上プログラムを継続発展させる。

(様式2)

## 大阪市立港晴小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p>・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く)【R6 年度:32.2%】</p> <p>・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合100%を維持する。【R6 年度:100%】</p> <p>※ 基準2 1年間の時間外勤務時間が720時間以下、時間外勤務時間が45時間を超える月数6以下、時間外勤務時間が100時間を超える月数0、直近2～6か月の時間外勤務時間の平均が80時間を超える月数0、を全て満たす。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【<b>基本的な方向6、教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進</b>】</p> <p>心の天気を活用し、児童の心の状態の移り変わりを把握する。 (6-1 ICTを活用した教育の推進)</p> <p>指標</p> <p>・毎朝の心の天気の入力等で、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。</p>	A
<p>取組内容②【<b>基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり</b>】</p> <p>ゆとりの日を設定し、教員の超過労働を解消する。 (7-1 働き方改革の推進)</p> <p>指標</p> <p>・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を100%以上にする。</p>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <p><b>【年度目標の達成状況】</b></p> <p>学習者用端末を連絡帳や学習ツールとして日常的に活用し、「心の天気」入力を習慣化するなど、ICT活用率の向上を図った。</p> <p>また、退勤時間の可視化や「ゆとりの日」の設定、学年団制度の導入により、働き方改革への意識向上が見られた。</p> <p><b>【取組の成果と分析】</b></p> <p>教育振興基本計画が掲げる「教育DXの推進」「しなやかな組織づくり」「働き方改革の推進」に</p>	

基づき、ICT を文房具として活用する環境整備を進めた。授業では ICT の再現性・保存性・即時性等を生かし、学びの質の向上を図った。また、オンラインによるアンケート実施など業務効率化を進め、教職員の時間意識向上を図った。

一方、授業研究の充実に伴う勤務時間の増加という課題も見られ、質の向上と負担軽減の両立が今後の重要課題である。

#### 次年度への改善点

- ・ 学習者用端末の活用ルールを再整理し、校内外での使用を一貫して指導する。
- ・ ICT 活用を学力向上と結び付ける実践研究を進める。
- ・ 業務の精選と役割分担の明確化を図り、持続可能な組織体制を構築する。
- ・ 退勤目標時間を意識した計画的業務運営を推進する。